

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 23 号:2012 年 9 月－2012 年 11 期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2012 年 1～9 月期のウズベキスタンの GDP 成長率は 8.2%

成長率の内訳はそれぞれ、鉱工業生産高が 7.2%、農業生産高が 7.1%、建設工事が 9.8%、小売りが 12.6%、サービスが 13.8%であった。国家予算の遂行状況は歳入が歳出を上回り、黒字額は GDP の 0.3%であった。共和国の 2012 年 1～9 月期社会経済発展の総括を議題として 10 月 19 日に開かれた閣議の中で、以上のようなデータが公表された。

1～9 月期の投資額の伸び率は 9.8%、そのうち外国資本による対内投資は 9.6%の伸びであった。この期間に 882 の生産施設が新たに操業を開始し、106 の投資プロジェクトが竣工した。

固定資本投資総額は 153 億スムとなり、「不変価格」ベースで 9.8%の伸びであった。海外から呼び込まれた投資と融資の額は 20 億ドルとなり、うち 16 億ドルは既に実際に投資または融資され、13 億ドルは外資による対内直接投資であった。

2012 年 1～9 月期の貿易収支は 19 億 5,500 万ドルの黒字であった。貿易高は 193 億 7,400 万ドルとなり、そのうち輸出は 106 億 6,500 万ドル、輸入は 87 億 900 万ドルであった。貿易収支は、対 CIS 諸国では 24 億 8,400 万ドルの黒字、そのほかの諸国とは 5 億 2,840 万ドルの赤字であった。

ADB が 2012 年と 2013 年のウズベキスタンの経済成長率予測を据え置き

GDP 成長率は 2012 年がおおよそ 8%、2013 年が 7.9%と予想されている。ADB の専門家によると、この間のウズベキスタンの経済成長を牽引するのは、公共投資、給与と送金の増加であり、これらのファクターがサービスと小売りの成長を確実にすることになろう。インフレ率はそれぞれ、2012 年が 9.5%、2013 年が 9%となろう。ウズベキスタンの経常収支は、2012 年は GDP のおおよそ 7%、2013 年は 6%の黒字となろう。ち

なみに、ADB のこれまでの予測では、経常収支が 2012 年には 7.5%、2013 年には 6% のそれぞれ黒字になるとされていた。

欧州復興開発銀行（EBRD）は、2012 年のウズベキスタンの経済成長率予測を引き上げ、およそ 7.5%とした。これは今年 7 月の EBRD の予測と比較して 0.5%の上方修正。一方、EBRD は 2013 年のウズベキスタンの経済成長率の予測についてはほぼ 7%と据え置いた。なお、EBRD の専門家たちは、ウズベキスタンのインフレ水準は 2011 年が 12.8%であったのに対して、2012 年は 10%になると予想している。

ウズベキスタン政府は 2013 年の GDP 成長率を約 8%と予測している。

ウズベキスタンが Doing Business-2013 で順位を上げる

世界銀行と IFC（世界金融公社）がこのほど発表した新しい Doing Business-2013 で、ウズベキスタンは 168 位から 154 位へ 1 年で順位を 14 ランク上げた。この結果ウズベキスタンは、ビジネスのしやすさで昨年著しい改善を見せた国にリストアップされた。

レポートのデータによると、ウズベキスタンでランクが上がった項目は、電力受給（ランキング全体の 167 位、5 ランクアップ）、信用力（154 位、4 ランクアップ）および破産処理（73 位、51 ランクアップ）。前年と変わらなかった項目は新規事業の開始（90 位）、不動産登記（138 位）および対外貿易（185 位）。ランクが下がった項目は建設許可取得（152 位、7 ランクダウン）、投資家保護（139 位、3 ランクダウン）、徴税（161 位、2 ランクダウン）および契約の強制力（46 位、1 ランクダウン）。

投資政策

回良玉中国副首相の訪ウの締めくくりとしてウズベキスタンと中国が総額 5 億 3,500 万ドルに及ぶ新規の各種共同プロジェクトに関する協定に調印

2011 年の二国間貿易高は 25 億 9,600 万ドルであった。2012 年 1～6 月期の二国間貿易高は 16 億 900 万ドルとなり、2011 年上半期と比較して 54.5%増加した。ウズベキスタンでは中国資本が参加する合弁企業 382 社、65 の中国企業代表部が活動している。

韓国各社がアングレン経済特区内で総額約 5 億ドルに及ぶ 30 のプロジェクト実施を計画

これに関する合意が得られたのは、2012年8月19～21日のカリモフ大統領による韓国訪問中のことであった。2016年までにアングレン経済特区をベースにして費用が合わせて約10億ドルに上る諸プロジェクトをスタートさせる計画。ウズベキスタンと韓国の二カ国間貿易高は、2011年に16億ドルを上回り、2012年の上半期は前年同期比でほぼ50%の増加を見せた。ウズベキスタンでは現在、韓国社が資本参加して設立された企業の数400を超えている。

金融セクター

ウズベキスタン共和国財務省と韓国の企画財政部が2012年9月、覚書に調印

この覚書では、2012～2015年の韓国対外経済協力基金（EDCF）との協力プログラムの基本指標、および総額5億9,500万ドルに及ぶ長期低金利融資の供与について述べられている。

アジア開発銀行（ADB）がウズベキスタンのイパク・ユリ銀行に出資する

これは中央アジアの市中銀行の定款資本へのADBの最初の出資である。今後はADBがイパク・ユリ（Ipak Yuli）銀行の主要株主に名を連ねることが期待されている。イパク・ユリ銀行は、総合的サービスを提供する民営の市中銀行であり、1990年に設立され、現在は事業規模で国内10位を占めている。9月1日現在、同銀行の総資産は7,380億スム、貸出金残高は3337億スムであった。同銀行の支店網は、共和国の様々な都市に配置された10の支店と69のミニバンクで構成されている。イパク・ユリ銀行とADBの提携関係はマイクロファイナンス振興事業を展開する中で生まれ、2006年以来確立されている。

エネルギー・セクター

2012年8月からウズベキスタンの天然ガスの中国向け安定供給が始まった

ウズベキスタンの天然ガスの中国向け輸出供給契約は、ウズトランスガス社とPetroChina International Company Ltd.との間で2011年10月に締結された。この包括契約は、中国が毎年約100億 m^3 の量のガスを買付けると取り決めている。「ウズベキスタンー中国」ガスパイプライン第3線が現在建設中であり、予定通り2014年1月に稼働を開始すれば中央アジアから中国への天然ガスの輸出と中継輸送を著しく拡大することが可能になる。なお、第1分岐線は2009年12月に稼働を開始し、第2分岐線は2010年に建設が完了した。これらを合わせた送ガス能力は年間300億 m^3 。2012

年末までに中国向け天然ガスの供給量は 40 億～50 億 m³になる可能性があるとして予想されている。2009 年 12 月に「トルクメニスタン－ウズベキスタン－カザフスタン－中国」ガスパイプラインが開通して以来、中国はトルクメニスタンから 360 億 m³のガスの供給を受けた。ウズベキスタンのガスの中国への輸出量は、2016 年までに年間 250 億 m³以上になる可能性がある。

ウズベキスタンでは 2013 年にブハラとフェルガナの 2 カ所で熱エネルギーの抽出と発電を兼ねるコージェネレーション発電所の建設工事が総額 1 億ドルを投じて着工される

政府はこのプロジェクトの事業化調査（FS）の審査を 2012 年第 4 四半期に行うこととしており、その後設備納入業者を選定するために入札が公示される運びとなる。

ブハラでのコージェネレーション発電所の建設に当たっては、設備容量が 70MW、年間の発電量がおおよそ 4 億 7,000 万 kW/h、熱エネルギー抽出量が 33 万 Gcal のコンバインドサイクルガスタービンを設置することになっている。工期は 2 年で、プロジェクト実施主体は公開型株式会社ブハロエネルゴマルカス。

フェルガナの発電所は設備容量が合わせて 24MW となる 2 基のガスタービンを備えることとしており、その発電量は年間 1 億 7,000 万 kW/h、熱エネルギー抽出量は年間 23 万 5,000Gcal となる。工期は 1 年半で、プロジェクト実施主体は公開型株式会社ファルゴナ・ピロヤト・エネルゴマルカス。

両プロジェクトに必要な資金は、事業会社（プロジェクト実施主体）の自己資金、ウズベキスタン国内の銀行からの融資、クリーン開発メカニズム（CDM）の枠内で呼び込まれる資金によって賄われることになっている。ウズベキスタンにおける国の CDM 実施機関として経済省が指名されている。

ウズベキスタンの年間石炭需要量は 2020 年までに 2.9 倍に増加し、おおよそ 240 万 t になると予測されている

わが国では現在、エネルギー原料としての石炭の利用比率を引き上げるための 4 つの投資プログラムが実施中である。ノボ・アングレン火力発電所では一連の発電ユニットの通年石炭炊きへの転換が進められているが、2013 年にはその第 1 段階が終わることになっている。アングレン火力発電所ではいくつかの新規の発電ユニットの建設が進められている。ウズベキスタンにおける石炭の地質学的埋蔵量と予想資源量は 48

億 3,860 万 t、そのうち確定埋蔵量は 18 億 9,700 万 t である。褐炭はタシケント州、フェルガナ州、ナヴォイ州およびカラカルパクスタン共和国に、石炭はスルハンダリヤ州およびカシュカダリヤ州にそれぞれ賦存している。

サンクトペテルブルグのアトムエネルギープロジェクト研究所がウズベキスタンのサンクトペテルブルグに建設されるシェール処理プラントの基本設計の作成を完了

このシェール処理プラント・プロジェクトでは、8 基の固体熱媒体装置 UTT-3000（乾溜炉の一種と思われる一訳注）を装備することにしており、それらのシェール処理能力は合わせて 800 万 t/年となる。シェール灰と半コークス化したガス（チャーガス）の残留熱を再利用して、自家用発電所（設備容量 120MW）で発電をすることが見込まれている。ウズベキスタンでのプラントの第 1 段階では 2 基の UTT-3000 を装備し、2014 年にその稼動を開始することになっている。このプロジェクトの費用は 6 億ドルとなる見込みであり、必要となる資金は、国営持株会社ウズベクネフチェガスの自己資金、ウズベキスタン復興開発基金からの融資および外国からの借款によって調達する予定である。ウズベキスタンの可燃性頁岩の埋蔵量は 470t と評価されている。

タシケント州におけるウズベクエネルギー社による実験用風力発電ユニットの建設工事が竣工間近

この発電ユニットは、設備容量 750kW、高さ 65m、ロータ径 50m、タワー基部の直径は 3.6m となる。2011 年、ターンキー条件による発電ユニット建設の入札が行われ、中国の Xian Electric Engineering 社が落札した。将来的には風力発電機の数を増やし、発電によって得られた電力をウズベキスタンの統一電力系統に送電する計画である。

シュルタンガス化学コンビナートの精製メタンをベースとし、GTL 技術に立脚した合成液体燃料生産工場の建設が続行中

現在、外部インフラ施設にかかわる作業が行われており、2013 年下半期に製造施設そのものの建設が始まる予定。一年間に生産される合成液体燃料の内訳は、ディーゼル燃料 67 万 1,000t、航空燃料 27 万 8,000t、ナフサ 37 万 t、液化ガス 6 万 5,000t となる。南アフリカの Sasol 社と国営持株会社ウズベクネフチェガスがそれぞれこの共同プロジェクトの権益を 44.5%ずつ保有し、残り 11%はマレーシアの Petronas 社が保有している。

ロシアのシロヴィエ・マシヌィ社がタシケント州のチャルバク水力発電所の近代化に着手する予定

公開型株式会社シロヴィエ・マシヌィ (Siloviye Mashiny、英語名 Power Machines) は今年 5 月、チャルバク水力発電所を傘下に擁する単一企業「ウルタ・チルチク水力発電所カスケード」と 4 基の水力発電機の近代化に関する契約を締結した。契約価格は開示されていない。水力発電機を交換することによってチャルバク水力発電所の設備容量を 155MW から 175MW に増強することが可能となり、この結果発電量を年間 1 億 2,000 万 kW/h 上積みできる。契約履行期間は 3 年。この事業の費用 5,390 万ドルはウズベキスタン側の資金によって賄われる。

2012 年のウズベキスタンの石油・ガスコンデンセートの生産が前年同期比 10.8%減少して 244 万 6,000t となった

特に石油の生産が 14.9%減少して 122 万 8,000t になった。ガスコンデンセートの生産量は 121 万 8,000t (-6.3%) であった。2012 年 1～9 月期の石油製品の生産量は、ガソリンが 92 万 6,600t (8.2%の減少)、灯油が 23 万 6,600 万 t (-9.1%)、ディーゼル燃料が 77 万 4,000t (-8.5%)、燃料用重油が 19 万 8,100t (-3.3%)、石油アスファルトが 11 万 3,100t (-11.5%) であった。2012 年 1～9 月期のウズベキスタンにおける天然ガスの生産量は 1.4%減少して 465 億 9,500 万 m³となった。液化ガスの生産高は 19 万 9,700t (前年同期比 4.1%の伸び) であった。

ウズベキスタン中国合弁の有限会社 Uz-China Uran がナヴォイ州で 2014 年にもウランの生産に着手する可能性がある

2013 年上半期に、この合弁の主要な原料基地となっている黒色頁岩型ウラン鉱床を開発するに当たってのウラン・バナジウム分離抽出技術の有効性について試験を完了する予定となっている。合弁 Uz-China Uran は、2009 年 8 月に中国の CGNPC Uranium Resources Co とウズベキスタン国家地質学委員会が折半出資で設立した。合弁設立条件に従って中国側は合弁 Uz-China Uran の製品を国際価格で優先的に取得する権利を得ることになっている。

国営株式会社ウズベクエネルギーが太陽光発電所をいくつか建設する計画、設備能力は合わせて 2 GW を上回る

各プロジェクトに必要な資金は、国営株式会社ウズベクエネルギーと ADB の自己資金を原資に調達されることになる。最初の太陽光発電所は設備容量が 50MW となる予定で、

タシケント地域に建設される。このプロジェクトの費用は2億5,000万ドル。ほかの太陽光発電所の建設着工はこれより遅れる見込み。

自動車・輸送セクター

ウズベキスタン幹線自動車国道整備計画の枠内で自動車道を建設することを目的としていくつかの国際的金融機関から13億9,000万ドル余りの資金を呼び込むことを計画

このうち、アジア開発銀行との間で総額が5億ドルに及ぶ、サウジアラビア開発基金とクウェート・アラブ経済開発基金との間で合わせて5,100万ドルに及ぶプロジェクトの立案がそれぞれ進められている。幹線自動車国道系統の構築にかかわる決定は2010年に採択され、その後、自動車道2,306kmの建設と改修および、ウズベキスタン幹線自動車国道を構成する総延長1,910mの橋梁と跨線橋、7カ所のインターチェンジの建設をもくろむ、2011～2015年を期間とするプログラムが採択された。ちなみに、2006年に自動車道の建設と改修に316億スムが計上されたが、これに対して2012年は同様の計上額がすでに6,540億スムと1億5,904万ドルに上っている。

ウズベキスタンでの Chevrolet Cobalt の生産台数が年間12万台を超える見通し

この新型自動車は、プレゼンテーションが2012年9月5日に行われ、販売がスタートしたのは11月であった。これまでこのモデルの自動車の年間生産台数は10万台と発表されていた。

ウズベキスタン韓国合弁 UzAutoAustem がアンジジャンで自動車用ホイールディスクの生産を開始

合弁の製造能力は、Spark、Lacetti および Cobalt の各モデル向けのスチール製ホイールディスク100万個余り、シャーシー構成部品が12万5,000セット余り。この合弁はウズアフトサノアト株式会社と韓国の Austem 社との間で設立された。合弁設立プロジェクトの費用は3,110万ドルであった。

General Motors とウズアフトプロム株式会社が GM Uzbekistan の自動車向けにトランスミッションを生産する合弁の設立を計画

双方は2013年末までに事業化調査(FS)を完了し、その後その先の進め方について討議に入る意向である。このプロジェクトは、費用が概算見積もりで1億5,000万ドルとなり、乗用車用トランスミッションおよびそのほかの動力装置用モジュールを年間25万個生産する設備能力を備えた工場を設立することを見込んでいる。

ウズベキスタンが輸送・通信インフラのトランジット・ポテンシャルの増強に 2015 年までに内外の資金源を原資に 85 億ドルを投資する見込み

自動車道の建設と改修に 35 億 4,000 万ドル、鉄道の整備と電化に 22 億ドル、航空輸送に 10 億ドル、さらに通信インフラおよび土木・公共サービスインフラに 18 億ドルをそれぞれ資本投資することが見込まれている。

合弁 GM Uzbekistan が 2013 年の乗用車の輸出を 21%増やし約 14 万 2,000 台とする予定

2012 年については自動車輸出台数が 11 万 7,500 万台程度になると予想されている。輸出増大のもくろみは、Spark、Lacetti および Cobalt の各モデルの増産を織り込んでのことである。計画では、2013 年の総生産台数は 27 万 4,000 台に達する。

その他のセクター

ウズベキスタン韓国合弁 ISU Navoi Chemical が、ナヴォイアゾート社を基盤とするポリ塩化ビニル (PVC) 生産化学プラント建設プロジェクトの実施を無期限に延期

合弁を構成する双方はプロジェクトの事業化調査書 (FS) を見直すことにしている。というのは、PVC を生産する際に原料となるアセチレンの生産装置は、公開型株式会社ナヴォイアゾート (Navoiyazot) が保有しているが、大幅な改造を必要としていることが分かったからである。新たなプロジェクト実施期間については発表されていない。ナヴォイアゾート社と合弁相手の ISU Corp 社が合弁 ISU Navoi Chemical を設立したのは 2009 年 6 月。プロジェクト実施費用は 1 億 8,000 万ドルとされ、PVC 生産能力は年間 5 万 t 程度を予定していた。PVC プラント建設に必要な資金は、韓国社数社の資金と融資 9,000 万ドル、ウズベキスタン復興開発基金の融資 8,000 万ドルおよび国営株式会社ウズヒムプロムの自己資金 1,000 万ドルを原資に手当てされる予定であった。

ウズベキスタン韓国合弁 Uz-Shindong Silicon が 2013 年にウズベキスタンで 2 カ所目の工業用ケイ素生産工場を建設する予定

工場の生産能力は年間 5,000t。合弁がアングレン経済特区の区域内で進めている総合濃縮施設の建設がすでに本格的な段階に入っている。新しい生産工場の原料はジザク州に賦存する石英 (二酸化ケイ素) 鉱床から供給されることになる。このプロジェクトの費用は約 1,000 万ドルであり、合弁設立企業の直接投資によって必要な資金が調達される。合弁 Uz-Shindong Silicon は、2008 年にウズベキスタン国家地質学・鉱

物資源委員会および韓国の Shindong Enercom Inc 社によって設立された。2012 年、合弁の設立者の一員として次の 2 社が加わった：ウズベキスタンにおける製鋼業最大手の公開型株式会社ウズメトコンビナート（ベカバド、タシケント州）および Shindong Enercom Inc の 100%子会社である有限会社 Solartech。なお、2012 年 8 月、ウズベキスタン韓国合弁である有限会社 Uz-Kor Silicon がナヴォイ州で工業用ケイ素生産プラントの稼働を開始している。この合弁はウズベキスタンでケイ素を生産する最初の企業になった。

タシケントで最も古い企業の一つである株式会社 Algoritm が Candy および Roison のブランドで冷蔵庫、セパレート型エアコンディショナーおよび洗濯機の製造を開始した

これに先立って、1982 年にすでに建てられていた Algoritm の工場の事務棟と生産棟の全面的な改装と修理が行われた。その後、公開型株式会社 Algoritm 国家持ち株売却にかかわる国家資産委員会によって公開入札が行われ、Roison Electronics 社がこれを落札し、事実上休業に陥っていた Algoritm へ投資し、業務を再開する義務を負うことになった。生産工場の設計能力は製品およそ 10 万台／年。

スイスの Maschinenfabrik Rieter AG 社が、ウズベキスタンにおける Rieter ブランドでの繊維製造設備の生産工場設立にかかわる第 1 段階を完了

（第 1 段階の）生産工場は 2012 年第 1 四半期に業務をスタートした。Rieter 社は当面の間、製品をコンポーネントに分解した形で納入し、その最終的な組み立てをウズベキスタンにおける設備能力を使って行うことになる。このプロジェクトでは 2015 年までに生産を軌道に乗せることになっている。第 1 段階の過程で同社は 700 万ドルを投資した。ウズベキスタンで生産を確立するために総額 2,700 万ドルを投資する計画である。将来的には生産された設備をカザフスタン、トルクメニスタン、キルギスその他の隣接諸国に輸出供給する予定である。